

19日予定の“稲刈り体験交流会”は中止に！！

9月19日、計画しておりました、留学生を招待しての“交流会”(松田副会長宅)は中止といたします。これは8月20日から、宮城県も改めて「まん延防止等重点措置」の適用対象となり、期間は9月12日迄ですが、災害的ともいえるデルタ株の感染拡大が続くことも想定され判断したものです。

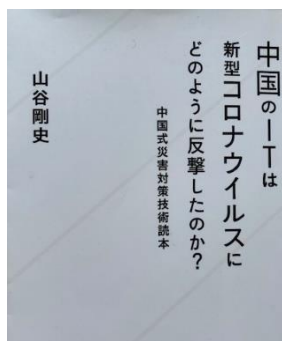
楽しみにされていた方も多く、大変残念ですが、明年には楽しく開催できますよう、早期のコロナ収束を願うとともに、会員の皆様も一層の注意と対策をお願いいたします！

『中国のITは新型コロナウイルスにどのように反撃したのか？』

—中国式災害対策技術読本— (山谷剛史著 星海社新書 860円)

本書は2020年8月25日に第1刷が発行された。武漢で新型コロナ感染が始まって、中国は国を挙げて様々な感染政策を打ち立ててきた。約8か月の間にロックダウン、ロックダウンした地域の食料品や日用品の物流、スマホによる行動管理、AIや5Gを備えたコロナ専門の病院の建設、自国でのワクチン開発……いろいろな報道がされている。看護で疲弊した医療従事者が、病院での休憩中にVRのゴーグルをかけて美しい景色と音楽で心身を癒し、リラックスさせているという。

1年後の2021年8月、私は本書を読んでいる。第5波は夏休みの楽しみを奪った。中国は国内を自由に旅行していると聞く。日本はこの一年、何をしてきたのだろうか。感染が始まって20か月の間の総括を誰かしているのかな？ この後も「ご協力をお願いします」なのか。まさか来年の夏休みもステイホーム？ 県立図書館にありますので皆さんも是非読んでみて下さい。(Y)



【丑年アラカルト】

「牛耳を執る」— 団体や組織を自分が中心となって意のままに動かす支配者になること。古代中国では諸侯が集まって盟約を結ぶ儀式で、生贄の牛の耳を裂き、その血をすすって盟約を誓い合った。「牛耳る」は動詞。『春秋左氏伝』

『中国少数民族民話』 「西藏(チベット)族 キツネの悲劇」2

またある日、キツネは、今度はライオンのところへ行って、告げ口をすることにしました。「トラは日中、幾度か地面を転げまわって尻尾を揺らし、キミを襲う準備をしているよ。それにいつもヤツはうそぶいているよ—山の上は骨がおれる、特にこの頃は獲物も少ないし、それに比べて、ライオンのやつはのんきなものだ、子供のそばでのほほんと、のどかな生活を愉しんでいるって、ね!」。ライオンは、それでも半信半疑です。

その晩、トラが帰ってきたので、ライオンが注意深く見ていると、三回ほど地面を転げまわり、さらに尻尾をぐるぐる揺らしたかとおもうと、子供のそばにごろりと横たわり、いびきをかきながら眠ってしまいました。次の日の朝早く、ライオンは眼を覚ますと、いつものように、ぶるぶる身震いをし、抜け毛を振り払いました。トラから見ると、ライオンはやはり「百獣の王様」です。神々しいまでも勇壮です。いよいよライオンに食べられてしまうのではないかと思うと、恐ろしくなってトラはがたがたと震えてしまいました。

そんなトラをいぶかしく思って、ライオンが「どうしたの、風邪でも引いたんじゃないの？ 近頃は朝晩よく冷え込むから—」と尋ねたところ、トラは先日、キツネから聞いた話の一部始終を、ライオンに話して聞かせました。するとライオンもまた、昨日、キツネから聞いた話を細大漏らさず、ライオンに報告したのです。こうしてトラとライオンは期せずして、キツネの詭計に気がつき、大いに憤慨しました。

ちょうどその時、キツネは近くの樹の下に寝そべって、事の推移を見守っていました。懇意な間柄の二頭が唸り声をあげて憤慨している様子に、自分の策謀がうまくいったのだと勘違いして、おもわず彼らの前にピョコンと飛び出しました。この行動が、さらなる彼らの怒りを呼び起こしました。意外にもトラの口の前一悲鳴をあげる暇もなく、キツネの生命は終わってしまいました。

